

エコアクション 21 環境経営レポート

期間：2023 年 1 月～2023 年 12 月

株式会社 五工社

作成日：2024 年 2 月 6 日

第 1 版

目次

1. 環境経営方針	2
2. 事業概要	3
3. エコアクション 21 推進体制	4
4. 環境目標と実績	5
5. 主要な環境活動計画と取組結果	8
6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	9
7. 社長による全体の評価と見直し・指示	9

1. 環境経営方針

環境経営方針

株式会社 五工社は、かけがえのない地球環境を守るため、

省資源・省エネルギーに努め、自然・社会・人と調和した事業活動を展開します。

当社は金属部品製造の事業活動を通じて、環境マネジメントシステムを構築し、環境目標を定め、定期的に見直しを行い、継続的改善に努めます。

次の事を推進します。

- ① 電気使用量の削減、二酸化炭素の排出量の削減。
- ② 金属廃棄物及び事業所廃棄物は、リサイクルに努め、廃棄物の排出量を削減
- ③ 水の使用量の削減
- ④ 化学物質の抑制のための適正管理
- ⑤ グリーン購入の促進

環境関連法規制等を遵守し、地域の環境保全に努めます。

環境教育を通じて全社員にこの環境方針を周知させると共に、知識・認識の向上に努め、一般に公表します。

改定日：2019年4月2日

制定日：2008年10月30日

株式会社 五工社

代表取締役社長 藤林 正也

2. 事業概要

1) 事業者名及び代表者名

株式会社 五工社
代表取締役社長 藤林正也

2) 所在地

本社 東京都品川区平塚2丁目16番地11号
上田工場 長野県上田市福田42-1

3) 設立日

昭和26年8月1日

4) 資本金

2,200万円

5) 環境管理責任者及び連絡先

環境管理責任者 製造部長 林 隆
TEL 0268-22-9308
FAX 0268-22-9236

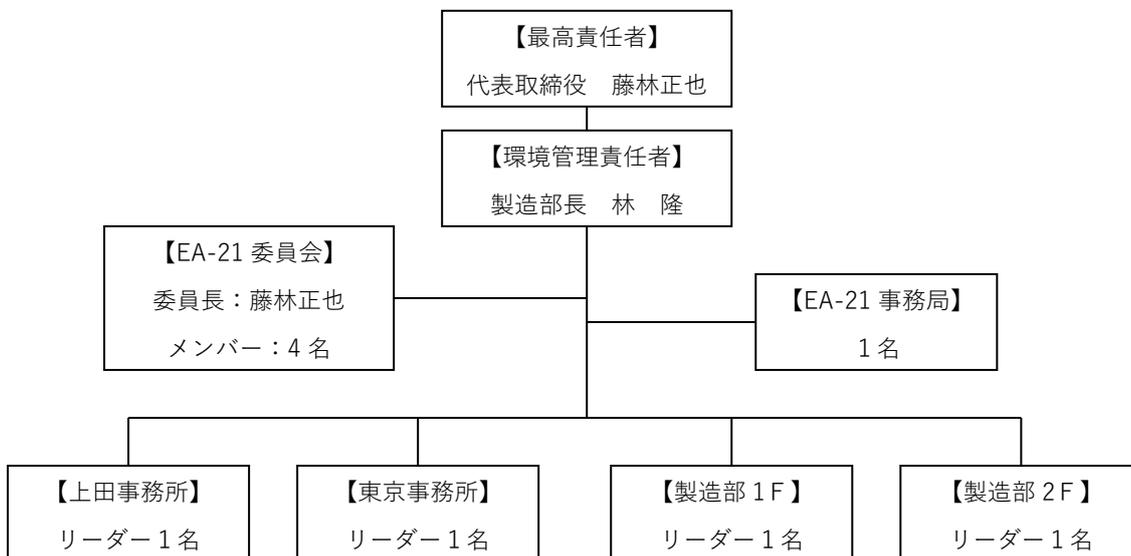
6) 事業内容

金属加工及び営業活動

7) 活動規模

	単位	2021年	2022年	2023年
主要製品生産量	t	13.31	10.43	9.85
床面積	m ²	919.87	919.87	919.87
従業員数	人	18	19	19

3. EA-21 推進体制



組織	役割
代表取締役 (EA-21 委員長兼務)	環境管理責任者を任命する。 環境経営システムの構築・運用・維持に必要な経営資源（人材・資金・機器設備・技術技能を含む）を準備する。環境方針を制定する。 環境経営システムの構築実施に関する情報を収集し、システム全体の見直しを行い必要に応じて改訂を指示する。 環境目標・環境活動計画及び環境レポートを承認する。
環境管理責任者	EA-21 の要求に適合したシステムを構築し実施し、そして維持されることを確実にすること。利害関係者からの苦情、要望等の処理と連絡。 環境への負荷及び取組への自己チェックの実施。 環境目標及び環境活動の策定。環境活動レポートの作成。
E A-21 委員会	環境目標及び環境活動計画の結果確認をする。 E A-21 に関する審議を行う。
E A-21 事務局	事務局として、環境管理責任者を補佐し、環境経営システムに関する業務全般を補完する。 社長による見直しのための情報として、その構築・実施に関する情報を社長に提供する。環境関連法規等の策定と実施をする。環境文書及び記録の作成と管理をする。
各部門責任者	自己の管理範囲における実施責任者として、全員参加による環境経営システムの実施及び責任を負い、部門内の必要な人材育成、パフォーマンスの向上を図る。 環境目標及び、実施項目に対する問題点の是正処置を実施する。

4. 環境経営目標と実績

当社の環境目標は、環境負荷の調査結果より以下のような目標を設定致しました。尚、目標設定の基準は2014年度のデータを使用しております。

実績値は、2023年運用期間 2023年1月～12月の1年間

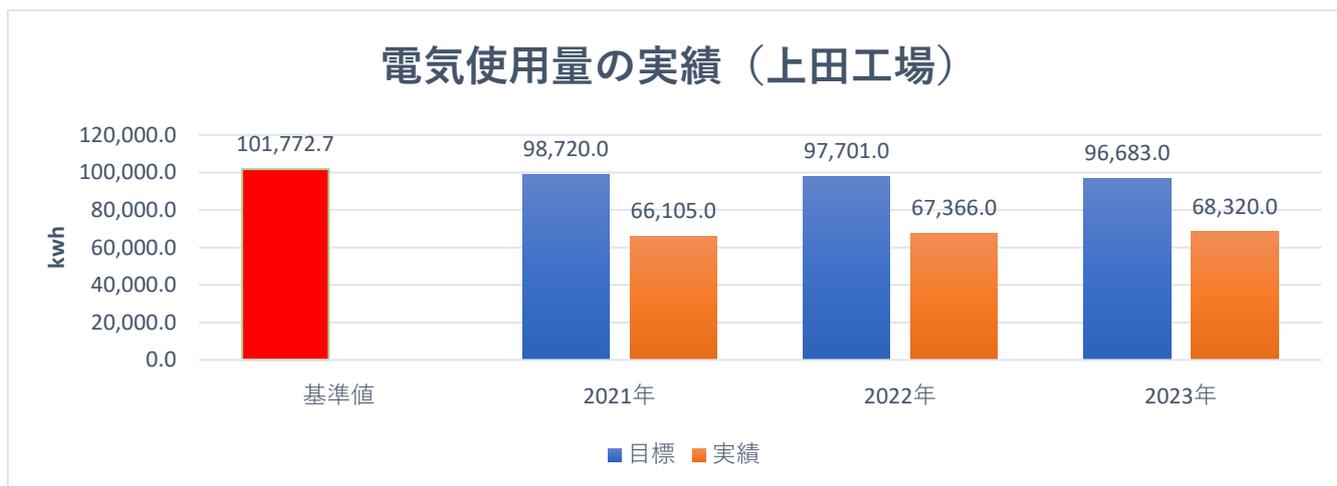
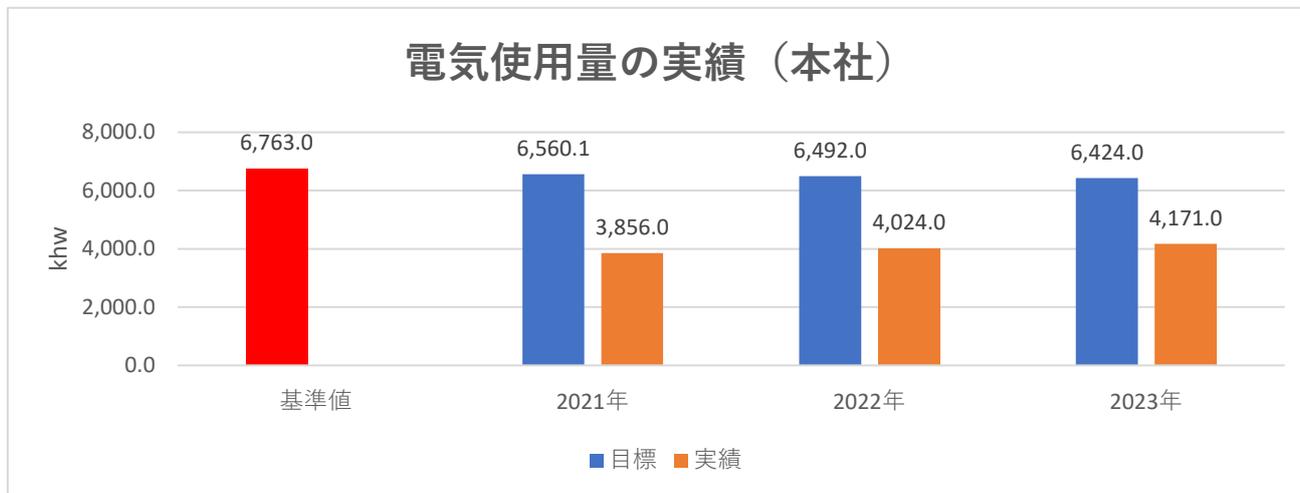
1) 環境経営目標と実績

※上段計画、下段実績と評価

環境目標		区分	2014年度 (基準年度)	2021年度 2021年1月～12月		2022年度 2022年1月～12月		2023年度 2023年1月～12月		
1	電気使用量の削減(kwh)	本社	6,763	目標	6,560.1	3%	6,492	4%	6,424	5%
				実績	3,856	○	4,024	○	4,171	○
		工場	101,772.7	目標	98,720	3%	97,701	4%	96,683	5%
				実績	66,105	○	67,366	○	68,320	○
2	金属クズ(有価物)発生量の削減(kg)	工場	385	目標	373	3%	369	4%	365	5%
				実績	104.4	○	134.1	○	87.8	○
3	廃棄物の削減(kg)	工場	508	目標	493	3%	487	4%	482	5%
				実績	332.56	○	258.14	○	286.2	○
4	水使用量の削減(m ³)	工場	785	目標	761	3%	753	4%	745	5%
				実績	424	○	454	○	598	○
5	CO ₂ 総排出量(kg-CO ₂)	全体	58,409.7	目標	56,657	3%	56,073	4%	55,489	5%
				実績	37,826.8	○	37,709.7	○	39,439.5	○
6	グリーン購入の促進	工場	使用量での管理							
7	化学物質使用量適正管理	工場	メチルアルコールからエチルアルコールに2013年6月から切り替え始め購入量を適正に管理する。							

※1 二酸化炭素排出量 二酸化炭素排出係数は本社、東京電力「0.457」 中部電力「0.431」を使用する。

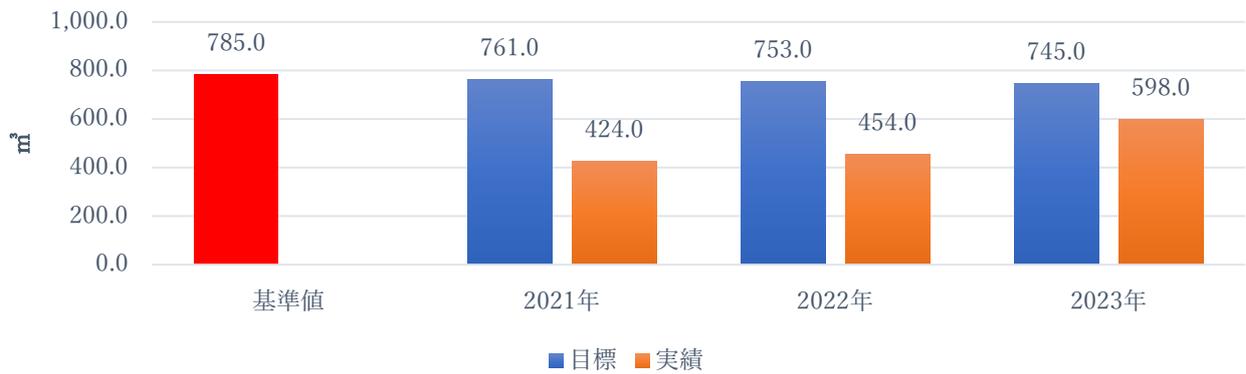
・使用量実績グラフ



廃棄物の実績



水使用量の実績



Co₂総排出量の実績



5. 主要な環境活動計画と取組み結果

環境経営計画	取組計画	評価	評価(結果と今後の方向性)
電気使用量の削減 CO ₂ 排出量の削減	・未使用時の電気消灯の徹底	○	・電力デマンド監視システムの電力量の数値管理化と目標値の設定をする。 熱中症などがあるためエアコンの温度設定を下げることもある。 エアコンの定期点検を実施し効率よく稼働させる。
	・空調温度管理(28℃、24℃)	△	
	・電力デマントの管理数値を下げる。	○	
	・パソコンを省エネ設定にする。	○	
	・冬場のエアコンとストーブで電気量を下げる。	○	
金属クズ発生量の削減	・製造工程の不良の削減	○	・有価金属の分別化に力を入れる。 ・不良の再生化に取り組む
	・不良品、材料クズの分別を記録	○	
	・不具合品の作成	○	
廃棄物(自社一般廃棄物)の削減	・ゴミの分別記録の実施	○	・ゴミの分別種類をさらに分けてゴミの回収での分別負担を減らすようにする。
	・両面コピー、裏紙の使用	○	
	・紙の梱包材に再利用	○	
	・食事の時の割りばしの返却	○	
	・会議でプロジェクターを使用(紙削減)	○	
水の使用量の削減	・工場の掃除を隔週に変更し水洗いの使用量を減らす。	○	・節水に取り組んでいるが、生活用水で大幅に削減するのが難しい。
	・手洗い時、洗い物において日常的に節水の呼びかけ	○	
	・茶碗の漂白の頻度の見直し	○	
	・節水ラベルの表示	○	
	・製造での洗い作業の頻度の見直し	○	
グリーン購入の促進	・グリーン購入について検討/実施	○	再用品や環境に配慮した製品を積極的に購入の検討している。
化学物質の使用量の削減	・再利用を行う	○	再利用で活用し使用回数を増やし産廃に出さないようにしている。

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

関連法規制の遵守状況確認を実施した結果、環境関係法令等への違反、訴訟はありませんでした。

近隣、関係機関から指摘や苦情はありませんでした。当社に関連する主な法規制は下表の通りである。

法規則名	当社の対応	判定	遵守状況
労働安全衛生法	①法規制の順守 ・管理責任者を置く・定期点検、保守・事故時、対応マニュアル・ 教育訓練・適正管理	○	・届出書確認 ・基準在庫以下確認 ・教育訓練
下水道法	①排水設備を設置 排水の定期検査の実施	○	・水質の検査 ・排水設備の設置
高圧ガス保安法	① 届出の確認 ② 必要設備の点検	○	・届出確認 ・基準在庫以下確認
省エネ法	① 電気使用量の削減 ② 燃料の削減	○	・EA21 取組み実施
循環型社会形成推進基本法 廃棄物処理法 長野県環境基本条例	①廃棄物の削減を実施 ②産業廃棄物の置場の表示板を設置 ③ 年度の産業廃棄物管理票に関する知事宛の報告書提出 ④ 産業廃棄物の処理委託基準の厳守 ⑤ マニフェスト発行管理	○	・EA21 取組み実施 ・産廃置場表示板設置実施 ・委託契約書、許可証明書の 確認
消防法 消防法(危険物関連)	①届出の保管、表示 ②基準在庫を決めて管理(灯油・工業用オイル)	○	・届出確認 ・基準在庫以下確認
消防法	①消火器の設置②定期点検の実施③警報機の点検実施	○	・定期点検
フロン排出抑制法	① 設備の点検	○	・簡易点検 3ヶ月/1回
道路運送車両法	① 車検(2年ごと)	○	・車検書確認
RoHS Reach	得意先に対し ① 非含有調査の提出 ② 不使用証明書の提出	○	・非含有調査の提出 ・不使用証明書の提出

7. 代表者による全体の評価と見直し・指示

『評価と見直し』

新型コロナウイルスも第5類に移行してきて前年と比べると稼働率も増え削減が難しい項目も出てきているが、エコアクション21を始めて環境の取り組みを行って昔と比べるとだいぶ使用量が減っている。

取り組み方で成果につながっているのは、いい方向だと思う。